

国際日本研究センター 海外大学・機関 調査表

訪問先	UCLA (アメリカ合衆国)、エル・コレヒオ・デ・メヒコ (メキシコ大学院大学、メキシコ)
調査日時	2010年(平成22年)3月15日 ~ 3月22日(8日間)
調査対象機関・学科・個人名	UCLAではCenter for Japanese Studiesの資料調査、East Asian library司書のマルラ俊江氏。 エル・コレヒオ・デ・メヒコでは、Tanaka Michiko教授、Yoshie Awaihara教授、Amauri Garcia教授の三人。
訪問目的	1. UCLA 東アジア図書館司書からみた日本研究に対する現状と要望 2. 日本語文献の電子化と中国語、朝鮮語の電子化状況と日本研究への影響 3. エル・コレヒオ・デ・メヒコが南米の日本語学科創設に果たしてきた役割 4. 東京外国語大学および国際日本研究センターへの要望
調査方法	項目に従ったインタビュー：写真・録音記録  Tanaka Michiko教授からは、日本研究科の修士・博士課程修了者リスト、修士論文・博士論文リストなどの基本資料を提供していただいた。
調査結果	<p>【機関の性格】 調査対象は以下のとおり。</p> <p><b>UCLA・Terasaki Center for Japanese Studies</b> Terasaki Center for Japanese StudiesはUCLAの学部・大学院の日本研究プログラムに協力しながら、独自のファンドやフェローシップを有している。</p> <p><b>UCLA East Asian library</b> 全米有数の東アジア関係図書館(143,000冊の日本関係文献を含む)</p> <p>エル・コレヒオ・デ・メヒコ(メキシコ大学院大学)日本研究科 以下の項目については、別紙添付資料を参照。</p> <p>【日本にかかわるコース概要・開講科目について】 【上記のコースの運営・科目開講にかかる問題・努力】 【上記のコース・科目にかかわる教員について】 教員数、専門分野、学位の種別など 【上記のコース・科目を履修した卒業生の進路について】</p>

	<p>【まとめ】</p> <p>UCLA・East Asian library 司書のマルラ俊江氏は、日本語文献の電子化が中国語、朝鮮語のそれと比べて遅れていることから、研究の質量の縮小がみられるとの示唆があった。エル・コレヒオ・デ・メヒコでは、Tanaka Michiko 教授、Yoshie Awaiharu 教授、Amauri Garcia 教授の三人にインタビューをおこなったが、Tanaka Michiko 教授からは、日本研究科の修士・博士課程修了者リスト、修士論文・博士論文リストなどの基本資料を提供していただいた。また、南米における日本語学科の創設にコレヒオが果たしてきた役割を説明していただいた。さらに、東京外国語大学および国際日本研究センターへの要望として、コレヒオからの中短期の研究者派遣を検討してほしいなどの提言をいただいた。</p>
備考	<p>【東京外国語大学との関係（外語大卒業生の有無など）】なし 以下については報告文を参照</p> <p>【連絡先】 窓口になっていただく方がいれば個人名も</p> <p>【受け渡し資料】</p>



調査担当者： 友常勉

Karen Cordero Reinman (Universidad Iberoamericana)

Email: [karen.cordero@uia.mx](mailto:karen.cordero@uia.mx)

Bert Winther-Tamaki (University of California, Irvine)

Email: [dewinthe@uci.edu](mailto:dewinthe@uci.edu)

Professors from Japan Area, El Colegio de México

Yoshie Awaihara (Japanese language - linguistics)

Email: [yawa@colmex.mx](mailto:yawa@colmex.mx)

Satomi Miura (Japanese language – contemporary communication studies)

Email: [smiura@colmex.mx](mailto:smiura@colmex.mx)

Virginia Meza (Japanese language – social psychology)

Email: [vmeza@colmex.mx](mailto:vmeza@colmex.mx)

Amaury García (Japanese art history – visual culture)

Email: [amaury@colmex.mx](mailto:amaury@colmex.mx)

表2 国籍・専攻別修士課程終了者

専攻	終了者	現職	終了者	国籍	終了者	現住地	終了者	注
国際関係	14	教職・研究職	28 (4)	アルゼンチン	9 (1)	アルゼンチン	4	( ) 死亡
歴史	9	外交官	8	ブラジル	3 (1)	ブラジル	1	
文学	8	公務員	5	コロンビア	5 (1)	コロンビア	4 (1)	
政治学	7	企業	4	キューバ	8	キューバ	2	
情報学	5	NGO	3	チェコスロバキア	1	チリ	1	
芸術史	6	博士課程	3	チリ	2	フランス	1	
社会心理	3	メディア	3	エクアドル	1	日本	2	
言語学	2	国際公務員	2	メキシコ	37	メキシコ	44 (3)	
教育学	2	精神分析	1	日本	1	DF	38 (3)	
哲学	2	未決定・不明	12	ヴェネゼラ	3	ニカラガ	1	
経済	1					ベネズラ	5	
経営学	1					出身国	26	
自然科学	1					不明	3	
不明	10							
	69		69		69			

表2 国籍・専攻別修士課程終了者

専攻	終了者	現職	終了者	国籍	終了者	現住地	終了者	注
国際関係	14	教職・研究職	28 (4)	アルゼンチン	9 (1)	アルゼンチン	4	( ) 死亡
歴史	9	外交官	8	ブラジル	3 (1)	ブラジル	1	
文学	8	公務員	5	コロンビア	5 (1)	コロンビア	4 (1)	
政治学	7	企業	4	キューバ	8	キューバ	2	
情報学	5	NGO	3	チェコスロバキア	1	チリ	1	
芸術史	6	博士課程	3	チリ	2	フランス	1	
社会心理	3	メディア	3	エクアドル	1	日本	2	
言語学	2	国際公務員	2	メキシコ	37	メキシコ	44 (3)	
教育学	2	精神分析	1	日本	1	DF	38 (3)	
哲学	2	未決定・不明	12	ヴェネゼラ	3	ニカラガ	1	
経済	1					ベネズラ	5	
経営学	1					出身国	26	
自然科学	1					不明	3	
不明	10							
	69		69		69			

表3 修士・博士論文リスト

博士論文

提出年	名前	国籍	題
2003	シルビアゴンサレス	メキシコ	広島の子の顔：原爆と言論統制
2003	ヨランダ・ムニョス	メキシコ	アイヌ女性の抵抗の文学
2004	エンマメント・サ	メキシコ	日本のエネルギー政策における決定過程
2006	メルセデスカルビーヨ	メキシコ	在日ラテンアメリカ人子弟の社会参加について
2007	アマリガルシア	メキシコ(キューバ)	枕絵： 神話・歴史・統制

修士論文

提出年	名前	国籍	題
1973	田中道子	日本	近代日本の形成における百姓一揆の役割
1974	アグスチンバシト	メキシコ	西田幾多郎 善の研究の基礎的解釈
1974	オスカルモンテス	アルゼンチン	大江健三郎の小説 翻訳と解釈
1975	カルメンフィエロ	メキシコ	日本語とスペイン語の音声学的比較
1975	ペドロモンソン	キューバ	戦後日米関係史におけるニクソンショック
(1977?)	エドワルド・カンパス	ベネズエラ	(江戸時代の農民運動)
1979	ギエルモクアルトウチ	メキシコ(アルゼンチン)	安部公房と戦後日本の小説
1982	ダニエルトレド	チリ	経済成長に寄与した日本的産業システム
1985	シルビヤノバロ	メキシコ	文学作品の和文西訳の問題解決の方法論の探究
1990	ルイスアルベルト・テイマルチノ	アルゼンチン	現代日本における電子技術の導入と労使関係への影響
1993	サンチアゴ・マテオス	メキシコ	日本政治権力の弱点：外交についての諸官庁の対立について
1993	ダニエルサンチャヤ	メキシコ	布団 田山花袋の自然主義文学について
1993?	パブロゴンサレス	メキシコ	?
1994	アルフレド・ロマン	メキシコ	国家安全保障と1990年代日本の金融
1997	セリヤオナハ	アルゼンチン	近代日本教育政策の発展と大正デモクラシー期の小学校教育

1997	エミリオガルシア	キューバ	東京の公共空間における都市モデルと西洋建築
1998?	ヘナロカストロ	メキシコ	在日韓国人の教育プロジェクト、1920—1950
1999	メルセデスカルビーヨ	メキシコ	日本における多文化教育
2001	ヨランダムニョス	メキシコ	鳥という名の女。チカップ・美恵子の運動としての文筆活動
2001	アドリアンロハス	メキシコ	日本の漫画。戦後日本の少女漫画
2002	エンマメントサ	メキシコ	核エネルギー政策に及ぼす反核市民運動の影響
2002	アマウリガルシア	メキシコ(キューバ)	十七世紀から十九世紀にかけての民衆文化と浮世絵
2002	ケンスケオク	メキシコ	日本市場に参入するための主たる障害について
2003	マルタロア伊	メキシコ	西洋技術の日本移転。幕末から第一次世界大戦期の鋼鉄産業を例として。
2003	ミゲルエスカランテ	メキシコ	日本における男性らしさと同性愛の表現について
2003	パトリシアロペス	メキシコ	産業システムの変化の諸要因
2003	ジャクリンブシオ	メキシコ	紫式部の源氏物語に見る六条御息所の怨霊
2005	ルルデスソサ	メキシコ	国連安保理事会でのイラク問題に関する日本の政策
2006	グスタボピタ	キューバ	(五輪書)
2006	リセッテトリニョ	キューバ	(穢れを除く芸能、能)
2006	アントニオジユネス	メキシコ	(内なる異人)

表 4 日本研究科客員教授

出身国・専門別

出身国	客員教授・専門家	専門分野	客員教授・専門家
日本	4 4	歴史・考古学	1 0
アメリカ合衆国	5	政治学	5
カナダ	2	社会学	8
英国	1	言語・言語学	5
メキシコ	1	国際関係	9
アルゼンチン	1	図書館	4
		経済学	3
		哲学・思想	3
		芸術史	2
		文学	2
		教育学	2
合計	5 3		5 3

時期区分別

時期	客員数	内日本	注
I	9	7	米国 2
II	2 1	1 9	英国 1 アルゼンチン 1
III	1 6	1 5	米国 1
IV	6	4	米国 1 カナダ 1
V	1	0	メキシコ 1
合計	5 3	4 6	7



表1 エル・コレヒオ・デ・メヒコ日本研究科修士・博士課程終了者リスト

期次	終了者 (修了者)	修了者 の%	博士入学者 (修了者)	修了者 の%	注
I.1964/1965	4 (4) *a、 b	100	0	0	*a 論文は要求されなかった。*b 死亡、1名
II. 1965/1967	4 (1)	25	0	0	
III.1968/1970* c	4 (3)	75	3 (2) *b、 d	67	*c 予科は1967年開始 *d 博士国外 *b、1名
IV 1969/1972	4 (0)	0	0	0	
V 1971/1974	3 (2) *b	67	1 (1) *d	100	
VI 1974/1977	1 (1)	100	1 (0) *e	0	*e 博士国内
VII 1975/1978	2 (1)	50	1 (0) *d		
VIII 1976/1979	1 (1)	100	1 (0) *e	0	
IX 1978/1981	2 (1)	50	2(0) *d	0	
X 1981/1984	1 (1)	100	1(0) *d	0	
XI 1984/1987	8 (2)	25	1(1) *d	100	
XII 1988/1991	7 (4) *f	57	2(1) *d,c	50	*f Segunda maestria, 1名
XIII 1991/1994	6 (4) *f	67	2 (2) *d	100	*f 1名
XIV 1994/1997	5 (4)	80	4(3)	75	
XV 1997/2000	5 (2)	40	1(1)	100	
XVI 2000/2002	4 (4)	100	1(0) *e	0	
XVII 2002/2004	2 (2)	100	0(0)	0	
XVIII 2004/2006	6 (3)	50	2(0)	0	
合計	69 (40)	58%	23 (11)	48%	
XIX 2007/2009	10名以上				

XX 2009X2011

博士課程終了者

期次	終了者 (修了者)	修了者 の%	注
I 1997/2000	2 (1)	50	
II 1998/2001	4 (3)*a	75	*a 外部、1名
III 1999/2002	1(1)	100	
合計	7 (5)	71%	
IV 2006/2009	3		*a, 1名

V 2009/2010

3

66

VI 2009/2012